

## 記念事業を沖縄で

日本人の正義と  
信義を取り戻したい

創立20周年の記念事業として、私達は沖縄に向き、沖縄の方々と一緒に「日本の国柄を考える」という、今一番問われているわが国の本質的課題を考える場を設け、真正面から論議する大胆な試みを企画した。

大東亜戦争、とりわけ民族興亡の瀬戸際の戦いを強いられた沖縄県民にとって終戦間近にせまった沖縄戦は、凄惨極まりない修羅場と化し言語に絶する壮絶な戦いを余儀なくされた地獄絵巻ながらの惨状であったという。その犠牲の大きさは筆舌に尽くし難く、戦後62年余を経た今日、今尚 戦争の爪痕も深く、県民の心にその影を落としている。

今回、私たちが沖縄において記念事業を開こうと考えた意図は次の3点に要約される。まず、第一に、わが国の将来像を考えるにあたり、先の大戦で祖国防衛のため戦われたすべての方々への心からなる感謝の誠を捧げると共に、お亡くなり

になられた多くの英霊に対し満腔の敬意

を表した上で、心新たに国家再建の行動を起こしたいと思うこと。次に、真の独立国家として、改めてわが国の新しい国家像を描こうとするとき、現在の沖縄がアメリカの占領統治下の影響を色濃く残すが故に、戦後、日本の弱体化を目論んだ米国による「占領政策」の今尚残る物心両面にわたる呪縛の数々、その具体的な事実関係を明らかにしたいとの思いからである。最後に、戦後長い間、わが国内外において政治的に心ならずも利用されてきた沖縄で、偽装された世論づくり、内地から動員されプロ化した集会等を目的あたりに、うつつとして晴れることなかった良識ある島民の方々に、真に人間ひと）としての尊敬、民族としての同胞感、日本人としての正義と信義を取り戻して頂きたいとの希(ねが)いからであった。

まさに、明治初期の廃藩置県以来、創造性・自立性を喪失した旧来の中央集権的行政システムと、肥大化した地方自治行政の見直し、少子高齢化、女性の社会進出等の社会課題の変化や情報通信等の技術文明の発達による社会システム

の変化等への対応も正念場を迎えるなか、

それらに先んじてやるべきこととして、先達によって築かれた歴史の奥に息づくわが国の国柄を、いまだ度明らかにする使命があるのではないかと強烈な「おもい」が我々を沖縄に駆りたてていった大きなエネルギーであった。

## フォーラムの組織再編

創設時のコンセプトが  
“今尚、新しい”

さて、フォーラムの運営体制について、当時の長谷川会長よりご相談があったのは、確か平成12年の初秋の頃であったと記憶している。その後しばらくして、長谷川会長は主だった会員の方々にお集まり頂き、会の運営について意見交換の場を設けられた。

年の瀬も近いある日、長谷川会長から「フォーラムの運営について、どうすべきか考え方をまとめておいて欲しい。」との要請があった。常々、長谷川会長の国家観や哲学、あるいは、志の高さや見識の広さ、そして、何をにおいてもその爆発的な行動

力に敬服していた私は、九州経済フォーラ

ム設立時の「若手経済人旗揚げ」という、西日本新聞に掲載されたあの朝の勇気ある行動の記事を思い出し、その役割の重さをひしひしと感じていた。

翌、平成13年立春と言えども、まだ余寒厳しいある日「理事会の了解を得たので、具体的に作業に入りたい」と指示を受け、定例総会をメドに仕上げることもなった。

設立時からの資料を紐解きながら今更ながら「さすが」と思わずうなるほど驚かされたのは、設立から15年の歳月を経たにもかかわらず、コンセプトが「今尚、新しい」ということであった。九州の若手経済人の育成、東京の若手官僚との交流をはじめ、現実を直視しアジアを視野に入れた九州島の創造のためのプログラムが網羅され、資料を拝読すればする程、その仕掛けのスケールの大きさに度肝を抜かれる思いであった。

私は毎月、ある時は理事会で、ある時は早朝会で、創設時からの紐解く資料からあふれ出る躍動する使命感、透徹された組織戦略、大胆にネットワークされた

九州人脈など、ひとつひとつがまるで宝物でも探し当てたような驚きとよろこびのなか、調査進行状況の報告をさせて頂き、

出席者の質問や意見を拝聴しては、当時からご活躍の方々にて改めて記憶を辿って頂いたりして整理していったが、ここまで

## 新しい船出

創ろう九州新時代  
拓こうアジアの新世紀

それから、6ヶ月を経て師走に入ったある日、ようやく臨時総会を開くことができたのである。新しい事業計画を練るにあたり特に留意した点は、コンセプトを

洗い直し、創設時の“おもい”に忠実に、九州全体とアジアを視野に入れた事業計画と活動体制を組み立てていくことであった。具体的には、キャッチフレーズを「創ろう九州新時代 拓こうアジアの新世紀」とうたい創設者長谷川裕一氏の志の高さを継ぐべく表現した。人事において、三役は九州全体を鳥瞰できる事業背景を持ち、リーダーシップのある方をお願いすることとした。また、私が会長をつとめさせて頂いている福岡産業振興協議会で、従

来から取り組んできた福岡・北九州の地域連携を推進するための福北交流の延長線上で、熊本県、大分県等、他県との交流会を開催し交流範囲を拡大してきたが、九州における福岡県以外での交流会の主体を段階的に経済フォーラムに移

し、共催して開催することにした。加えて、同じ産業振興協議会で九州各県自治体に呼びかけて開催していた「福岡・博多への拠点開設・運営研究会」をベースに、日常的に交流を深めていた九州各県事務所との支援連携窓口を、産業振興協議会より経済フォーラムに移行し、併せて各事務所長の位置づけを組織上で明確にし、各県との連携を容易にした。管理面の改革は、中経協が事務受託することとし、従来の管理コストを2〜300万削減。余剰金の一部を早朝会における法人会員の会費の無料化と広報宣伝費に充当することとした。

考えれば、どれも創設時のコンセプトが年を経る中でホコリを被っていただけで、すばらしい原型が見えなくなった状態で

## ご協力頂いた企業

- 九州電力株式会社
- 株式会社福岡銀行
- 株式会社西日本シティ銀行
- 西日本鉄道株式会社
- 西部ガス株式会社
- 九州旅客鉄道株式会社
- 株式会社九電工
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州
- コカ・コーラウエストホールディングス株式会社

- 株式会社新出光
- 株式会社ゼンリン
- トヨタ自動車九州株式会社
- 日産自動車株式会社
- 西日本電信電話株式会社
- 株式会社はせがわ
- 福岡ソフトバンクホークスマーケティング株式会社
- 福岡商工会議所
- 株式会社ホークスタウン
- 株式会社石村萬盛堂

- 岩尾磁器工業株式会社
- エントリーサービスプロモーション株式会社
- 九州日観植物株式会社
- 株式会社九州リースサービス
- 久留米運送株式会社
- 西部ガスエネルギー株式会社
- 株式会社JTB九州
- 篠原公認会計士事務所
- 株式会社ゼンリンプリンテックス

- 高松産業株式会社
- ハウステンボス株式会社
- 松田都市開発株式会社
- 松尾建設株式会社
- レイナ株式会社

あったものを、きれいにハタキを掛け、ふきあげてピカピカにしたようなものであった。

このように、創立から15年の節目で、創設時のコンセプトを磨きあげ、更に二代目会長大迫忍氏、三代目会長石原進氏と、その後5年の歳月を重ねるなか確実に原型に忠実に組織づくりは前進、九州各県との交流も活発に展開されている。

まだまだ積み残した課題は多いが、創設20年、創設者長谷川裕一氏に改めて敬意を表しながら、創設時の会員の大半が40才代であったことを鮮烈に思い起こし、今、その若い世代に背負って頂く役割を明らかにした「新たな場づくり」こそ必要ではないかと考え、次なる一石を打つ手を思いめぐらしているところである。

# Kyushu Economic Forum

Commemoration  
magazine

九州経済フォーラム20周年記念誌

## 創ろう九州新時代 拓こうアジアの新世紀

九州経済フォーラム創立二十周年記念誌

二〇〇八年六月発行

発行／九州経済フォーラム

〒八二一〇〇二

福岡市博多区博多駅前二丁目九一二八

TEL 〇九二一四五一八五九三

発行人／事務総長 小早川明徳

デザイン／株式会社デザインQ 寺師秀史

印刷／株式会社博多印刷

編集／九州経済フォーラム事務局

内田雄一郎・西根秀平・浦脇慶祐・行弘賢治・佐久間俊輔

無断転載を禁じます。  
乱丁・落丁本はお取り替え致します。